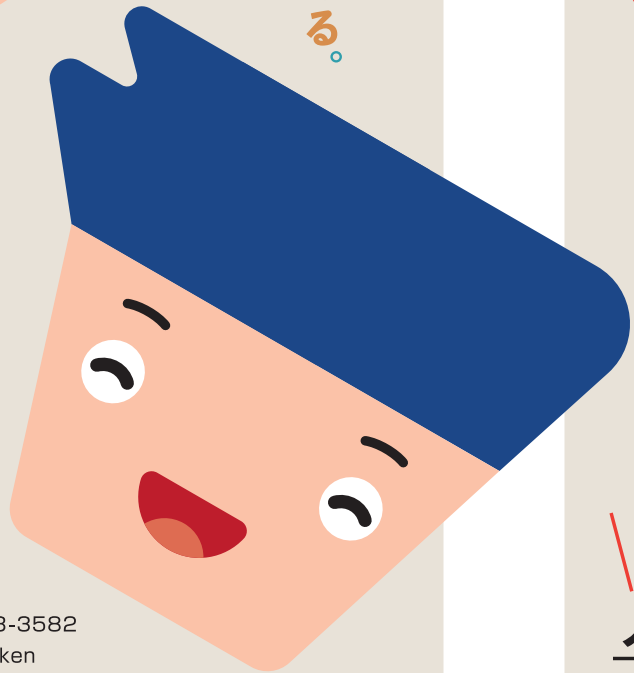




思い込みより、思いやり。
決めつけるより、気にかける。

愛知県
法務省委託事業
愛知県県民文化局
人権推進課
〒460-0001
名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎3階
TEL.052-954-6167 FAX.052-973-3582
http://www.pref.aichi.jp/soshiki/jinken

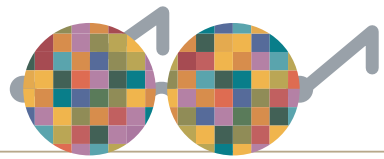




あれ？
いつかけたんだろう。
思い込みメガネ。

ちゃんと見る
ちゃんと知る
人権のこと

思い込みメガネ
かけていませんか？



国や地域、人種、外見、性別、年齢。

見えている一部分だけで、

相手を「こうだ」と決めつけていませんか。

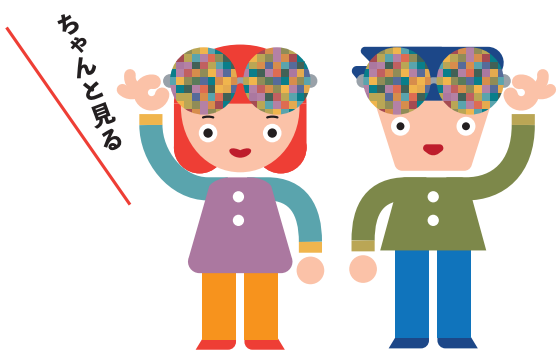
「思い込み」という心のメガネをはずし、

ありのままの相手を見つめ直す。

思いやり、気にかけるその一歩から、

すべての人の人権が守られる

あたたかい未来が始まります。





人権って何？

誰もが生まれたときから持っている、
「人として尊重され、自分らしく生きる権利」のこと。
すべての人が自由で平等に、
安心して生きるために欠かせないものです。
日本国憲法でも保障されており、
誰もが大切にされる社会をつくるために、
守らなければならない大切なものです。



様々な人権問題

すべての人が生まれながらに平等に持っている人権。しかし、国や地域、人種、外見、性別、年齢などを理由に、差別や不当な扱いを受けている人がいます。「〇〇だから、こうだろう。」そんな思い込みで人を決めつけることが、差別や偏見につながり、人権を傷つけることがあります。誰もが自分らしく生きられる社会をつくるために、私たちはさまざまな人権問題を知り、考えていくことが大切です。

「外国人だから」で、決めつけていませんか？

お店に、外国人のお客さんが来た。
「日本語が通じなかったら、どうしよう」
「マナーを知らないかもしれない」
「お店のルールを守ってもらえないかもしれない」
「ほかのお客さんにも迷惑をかけてしまうかもしれない」
だから、外国人のお客さんはお断りにしよう。
……いいよね、そうしても。だって、「外国人だから」。





愛知県には、およそ36万人の外国人が暮らしています。

さまざまな国や地域にルーツを持ちながら、私たちと同じように、地域社会の中で日々の暮らしを送っています。その中には、日本で生まれ育った人もいれば、外国で生まれて日本に来た人もいます。日本語や日本の文化・ルールをよく知っている人もいれば、これから学んでいく人もいます。

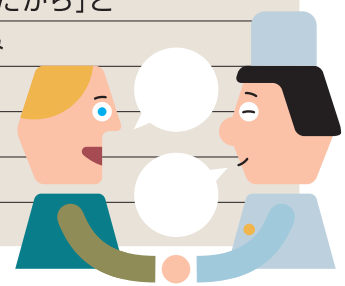


身近にある人権問題

「外国人だからコミュニケーションを取ることが難しい」と思われ、アパートを借りられなかったり、仕事やアルバイトを断られたりすることがあります。飲食店などで、入店を断られるケースもあります。周囲と関わりを持つことが難しくなり、地域社会から孤立してしまうことも問題になっています。

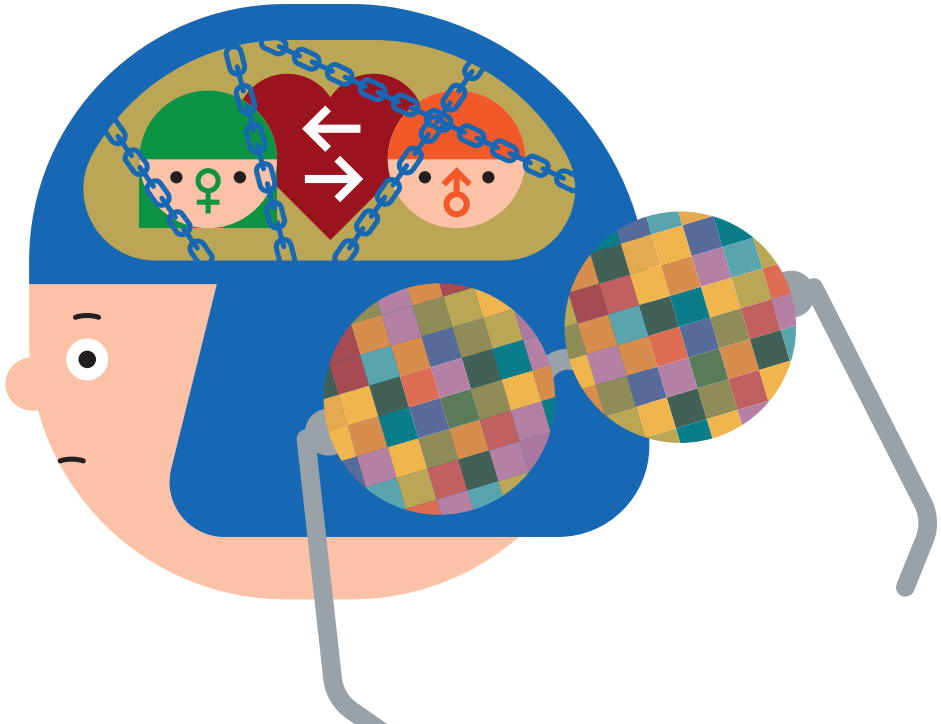
一人ひとりを、ちゃんと見る。

実際に話してみたら、コミュニケーションが取れた。
お店のルールも、ちゃんと知っていた。
マナーを守って、ほかのお客さんと同じように
食事を楽しんでいた。「外国人だから」と
思っていたのは、私の思い込み
だったのかもしれない。
決めつける前に、まずは
一人ひとりと話してみよう。



「男だから」「女だから」という「思い込み」

彼は、男の子が好きらしい。
「男の子なのに、どうして男の子が好きなの？」
「女の子を好きになるものじゃない？」
男の子なら、女の子を。
女の子なら、男の子を。
「恋愛って、異性同士でするもの」だよね。
……だって、それが普通でしょ。





性的少数者「LGBTQ」及び性的指向・性自認「SOGI」について

「LGBTQ」は、性的少数者を表す言葉の一つです。性には、からだの性、心の性、好きになる性など、さまざまな要素があります。その組み合わせは一人ひとり異なり、性のあり方はグラデーションのように多様です。こうした性のあり方を表す言葉に「SOGI」があります。性的指向（Sexual Orientation）と性自認（Gender Identity）の頭文字をとったもので、性的少数者に限らず、すべての人に関わる概念です。



身近にある人権問題

性的少数者が身近にはいないだろうと、学校や職場で心無い発言をしたり、本人の意思によらない暴露といった行為が問題になっています。「誰にも知られたくない」という思いから悩み続けることも。性のあり方を理由に、学校や職場などで生活しづらさを感じている人がいます。

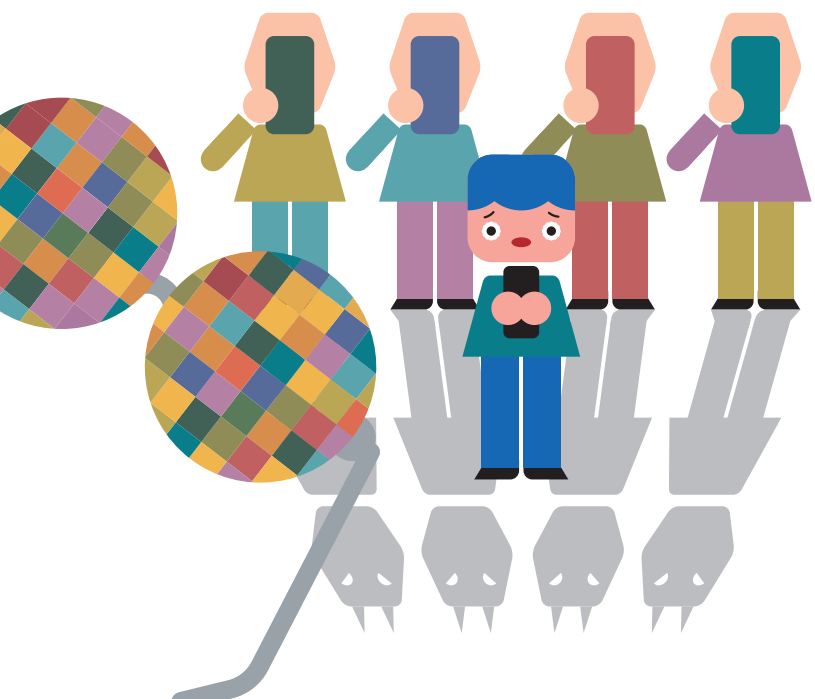
私の「普通」が、みんなの「普通」とは限らない。

男の子なら、男の子らしく。好きになるのは、
女の子が当たり前。そう思っていたけれど、
それは私にとっての「普通」だったのかもしれない。
性のあり方も、着たい服も、好きになる人も、
一人ひとり違う。「男だから」「女だから」と、
私の中の当たり前を相手に当てはめない。
その人がどうありたいのか、その人
自身の気持ちや選択を大切にしよう。



インターネットの中の「思い込み」

SNSで、気になる投稿を見つけた。
「これは間違っている！」「こんなこと、許せない！」
そう思ったら、みんなにも伝えたくなる。
「この人、こんなことを言ってるよ」と、投稿をシェアする。
みんなが言っているから、この情報は本当。
間違っている人には、何を言ってもいい。
……だって、悪いのはこの人だから。





暮らしに欠かせない存在「インターネット」

いまやインターネットは、情報を調べるだけでなく、友達と交流したり、自分の考えを発信したりする、私たちの身近な存在です。子どもから大人まで、さまざまな場面で利用しています。インターネット上では、相手の顔が見えない状態でつながることができ、発信した情報が多くの人に広がることもあります。



身近にある人権問題

インターネットは顔や名前が見えないため、相手の気持ちを想像することが難しく、悪口を書いたり、個人情報を流したりする行為に繋がることがあります。根拠のない情報であっても、一度広まると完全に削除をするのが難しいため、書き込まれた人が誤解されたり、嫌がらせを受けたりすることもあります。

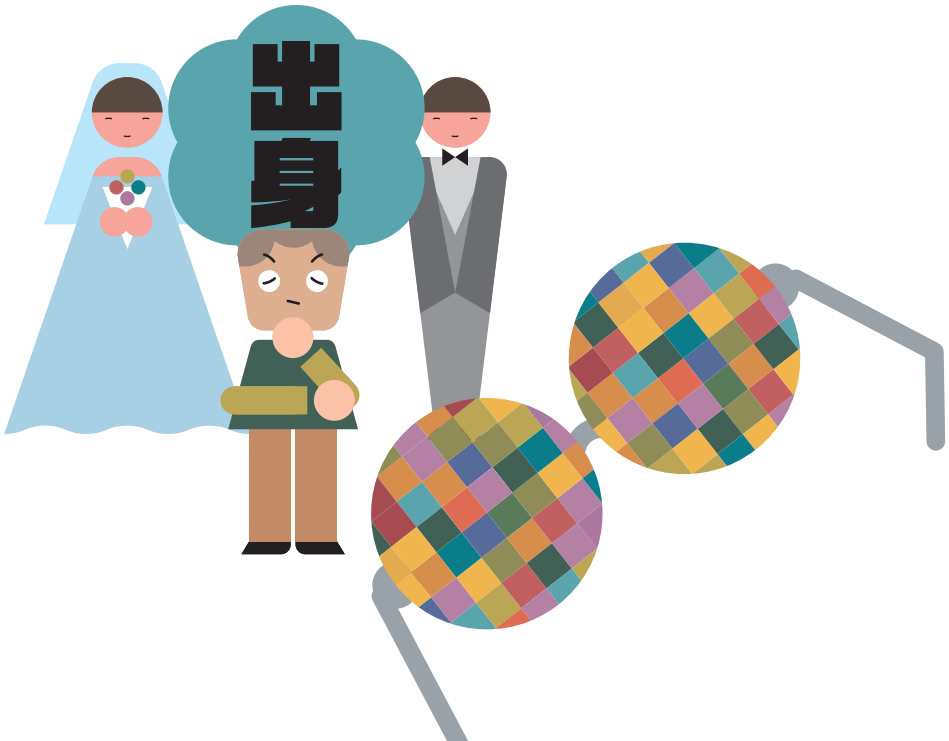
一度立ち止まってみよう

「これは絶対おかしい!」
「みんなが言ってるから、本当のことなんだ」
そう思っていたけど、その情報は本当に正しいのかな?
その言葉を受け取った人は、どう感じるだろう?
投稿する前に、一度立ち止まる。
信じる前に、一度確かめる。
誰かを傷つけないために、
一度立ち止まって考えるようにしていこう。



「どこで生まれたか」がそんなに大事？

娘が、結婚したい人を連れてきた。
とても感じがよくて、しっかりしている。
二人でいる姿も、幸せそう。
「この人なら、安心だな」
そう思っていたけれど、相手の出身地を知った。
「……あの地域の出身なの？」
結婚には、反対したほうがいいのかな…。





なぜ部落差別は生まれたのか

日本の歴史の中で、身分によって人々を分ける制度が存在していました。その中で、特定の身分の人々が住む地域や、仕事などが限られ、差別されるようになりました。こうした差別は、身分制度がなくなった後もなくならず、地域や出身を理由とする偏見や差別として、長く残ってきました。



身近にある人権問題

人は誰も生まれや出身などを自分で選ぶことはできません。個人では責任のないことで、差別をするようなことがあってはなりません。結婚や就職の際に、本人の人柄や能力とは関係のない身元調査を行うことや、インターネット上で特定の地域や、そこに住む人を傷つけるような書き込みをすることなども、人権に関わる問題です。

その人の可能性を、どこで判断しますか？

娘の結婚相手の出身地を知ったことで、
いつの間にか「大丈夫かな」と考えてしまった。
どんな人なのか。何を大切にしているのか。
二人はどんな関係を築いてきたのか。
その人のことを知るために、
大切なことはたくさんある。
生まれや出身ではなく、
目の前にいるその人自身を見てみよう。

